流血船

pink.peach

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
流血船

【Ｎコード】
Ｎ０８７４Ｖ

【作者名】
ｐｉｎｋ．ｐｅａｃｈ

【あらすじ】
タイトルはホラー？　……ですが実際は全く違います。
御付き合いくださいましいいいいい！！！！！！！！
主人公の名前が出ないですう。。。
普通のクルーザーのはずが「俺」戦いに巻き込まれてしまいます！！！

流血船（前書き）

んん～。
グロ注意です。これでも作は女です！

「ふ～ん。剣と運を持ったｃｈａｌｌｅｎｇｅｒ？　さあ、どこまで勝ち進めるかなぁ……」
その人は、俺の頭のてっぺんから爪先までじっくり眺めてからそう呟いた。
「あ、あの……」
俺が遠慮がちに声をかけても、その人は返事もしなければ仮面のような無表情から眉一つ動かしもしない。……。
「つかぬことをお尋ねしますが……」
俺がそう言うと、その人はやっと
「何？　要件があるならさっさと言えば」
という返事を返してきた。俺はその言い方にムッとしながらも、
「相手は大人だ年上だ」と3～4回自分に言い聞かせた。
「チャレンジャーって言いましたけど、俺今観光クルーザーに乗ってるんですよ？　一体何にチャレンジしろと？？？」
「簡単に言えば１２人抜き」
は？　何を１２人抜くのか？

・・・・・・・・・・・・・・・

恐怖のルール説明？？？（前書き）

いえーい。
あてんしょんぷりーず？？？
まだグロ警報は発動しません。まだオーケー。まだＯＫ。
ただ不気味かなぁ……

恐怖のルール説明？？？

俺が不思議に思って口を開こうとすると、
「は？　は無いでしょ。人だよヒト。１２『人』って言ってるんだから分かるでしょ？　君みたいなのがこの船に乗っちゃって大丈夫かなぁ……」
！！！？　俺今「は？」なんて声に出して言ってないし。俺の顔に出ちゃったかな？　それとも考えを読まれたとか？
「御名当。大当り。僕は相手の考えを読める」
ちょーっとっ！　サラっと言っちゃってますけどそれヤバ……口を慎みましょうっ。
「そうだね。僕の前で……いや前じゃなくて近くで……ん？　いやこの船の中で変なこと考えると大変なことになるよ。煉獄で真っ黒コゲとか」
だから！　それもヤバッ……「変なこと」は考えないようにしましょうっ。
「じゃあ君が知りたがっているｃｈａｌｌｅｎｇｅについて話そうか？　そうだね……、１２人抜きって言ったけどね……」
ルール説明が始まった。

恐怖のルール説明？？？（後書き）

また読んでください！！！

続き。。。（前書き）

はーい。ないすとぅみーとぅ？？？　あいむぼわーど。さんきゅー。（？？？）意味わかった？　ｕｎｄｃｒｓｔａｎｄ？
遊んですみませんでした。。。真面目にやります。
是非、最後まで読んでくださいね！
感想、お待ちしております（＃＾．＾＃）

続き。。。

「１２人抜きって言ったけど、それは《この船の乗務員を全部倒そう》ってこと。

１２人皆倒さないとこの船からは出られない仕掛けになってね。だからもしこの船から出たい場合は戦わなければいけない。

まあ、設備は整ってるし生活で困ることはない。永住しようと思えば出来るけど四六時中命の危険に晒されるかな。

ああ、言っとくけどこの船には君以外１２人しか乗ってない。もちろん僕も含めて。その人達を全員倒すってことだから――――さすがに『倒す』って意味は分かるよね？

そうだ、アレに君のことを言っとかなくちゃ。準備とかもあるだろうし。

ん？　連絡取れない。こうなったら――――」

その人はいじっていた機械の受話器らしきものを乱暴に放り投げると、その機械に手をかざした。

すると。

その人の瞳が紅く光り出した！！！

俺はその機械な……いや奇怪な光景を、さっきの「その人」の話なんてほとんど考えずにただただ見ていた。

怖ぇ――――っ。

俺怖がりなんだよー。自分でもマジで自覚してるんだよー。うわあああああーっ。ヤベえええええええっ！！！！！！

「別にそんな怖がらなくても良くない？　危険なことしてる訳じゃないし」

その人は、そう言いながら真赤に爛々と光る目で振り返った。

「うわぁっっっ」

俺はジリっと後ずさった。するとその人は初めて能面みたいな表情を崩してククッと笑った。……その目で笑われてもあの無表情よ

り恐ろしいわっ。
「さっきから僕のことその人その人って。呼びづらくないの？」
その人が……じゃないっ。でも名前も分からないし。じゃあ「あの人」か。
「それじゃあ変わらないじゃん。僕は――――」

続き。。。（後書き）

いやぁ……早く名前出したいなぁ……
頑張りますっ。是非また読んでください！

本文とは無関係な誰かさんのお話。（前書き）

本文とはほぼ無関係です。
本文のみを楽しみたい方は御遠慮くださいますようお願い申し上げます！！！
ちょっと残虐かな……いや大丈夫だな。

本文とは無関係な誰かさんのお話。

昔は、楽しかったのにな。
今じゃ僕はほとんどｂｕｉｌｄｉｎｇ状態だし。
もうアレは――――本当のアレは還って来ない。会いたくても。声をかけたくても。
何回も、何回も、思った。
あの時の僕に今程の力があったなら。
悲しまなくても良かった。
恨まなくても良かった。
憎まなくても良かった。
何故？
何故争うの？
何故殺し合うの？
それが楽しいの？
だったら殺ればいいじゃないか。
永遠に。
ｒｅｐｅｎｔａｎｃｅ．
僕と同じ思いを噛み締めればいい。
そしてアレと同じく、
戦艦で死ねばいい。
絶対。
ゼッタイ。
代償を貰うよ。
『晄』。
アレを僕から奪っていった。
晄が僕から晄を奪った。
返して。
還して。

カエシテ。
生き甲斐を奪って、
アレを苦しめて、
僕をも苦しめた。
そんな晄を、

僕は絶対許さない。

本文とは無関係な誰かさんのお話。（後書き）

番外です。
真面目に受け取らないでください（^^）だって真面目に書いてないから。
でも楽しんで下さいな♪♪♪

……終わるなっっっっ。（前書き）

うーん。
えーっと。
すみませんっ。

……終わるなっっっ。

「僕はレイ」

……空気が重いっ。
「この船にはどうして乗ったの？」
「……ヒマだったからです」

鳥籠のような物が浮かび上がった。その中にはこの世の物とは思えない程美しい蝶が舞っている。まるで宝石細工の様な――――。
その時、嫌な考えが頭を過ぎった。

「蝶は、人間の魂、つまり霊魂だ。むやみに手を出してはいけない」
兄さんが言った言葉。俺が蝶を素手で捕まえようとしたときの……
いや、そんなことある訳無い。
「決め付けないほうがいいよ――――そうだった時後悔するから」

「君はこの中に入るのかなぁ」
呟かれたその言葉が、なぜか胸に突き刺さった。
「突き刺さった？　流れる血は止まらない」

後の、事は、全て、想像に、御任せ、致します。

……終わるなっっっ。（後書き）

ちょっとーー。
あと少ししか続かないかもー。
もともと長くする気は無かったけど。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0874v/

流血船

2011年10月9日12時09分発行